

ばんれきごさいそうかりゆうもんへい
萬曆五彩草花龍文瓶

種 別	県指定文化財 工芸品
指定年月日	平成 19 年 4 月 27 日
所 在 地	那谷町 (那谷寺)

本品は一般に「萬曆赤絵」と呼ばれる陶磁器のひとつである。萬曆赤絵は、中国明の萬曆年間（1573～1620）に景德鎮窯で作られたもので、近世初期以降日本においても珍重されてきた。また萬曆赤絵などの中国明代の色絵陶磁の技法は、江戸初期に日本に伝えられ、九谷焼をはじめとして有田焼や鍋島焼など、日本の色絵陶磁に大きな影響を与えたとされる。

本件は前田利常によって再建された那谷寺に、馬符（市指定文化財）などと共に利常自らが寄進したものと伝わり、長崎に加賀藩御買物役を派遣して購入させたものとみられる。

高さ 56.6 センチメートルの大作であり、中国古代の青銅器「尊^{そん}」に倣って、口縁が広がり、胴部が球形に膨らむ形をとっている。首の一部に傷があるものの、緻密な筆致と鮮やかな彩色は、萬曆赤絵の特徴が良く出ている。文様には龍文のほか、牡丹と孔雀の花鳥文や花枝文が用いられ、唐草文や雷文でそれぞれ区切られている。また口縁部側面には「大明萬曆年製」の銘が書かれている。

